

# チェックシート導入による血液透析導入期指導の看護師の意識変化

キーワード：血液透析導入・指導・意識変化

検査診療部

江藤利枝 中尾千晶 田中松子 倉田町恵

## I. はじめに

わが国の透析患者は 1990 年以降増加の一途をたどり、血液透析（以下透析とする）療法そのものは腎代替療法として広く認知されている。A 病院の透析導入患者も増加傾向にある。2009 年における A 病院の透析導入患者数は 13 人であり、このうち 6 人が緊急導入である。透析導入は、慢性腎不全保存期から透析療法の正しい理解を持ち、計画的に行うことが望ましいが、A 病院は地域の中核医療機関である為、透析導入患者は緊急症例や重症例が多い。

透析導入期は腎不全による尿毒症症状や透析療法による急激な体液の変化、透析導入に伴いショックや否定的な感情が強く、身体的にも精神的にも均衡が保たれない時期である。そのため、A 病院では早期に透析導入期指導が開始できず、在院日数の短縮から、十分な指導が行えない状態で転院している。また、患者指導マニュアルがなく、看護師の透析室経験年数に幅があり、知識や技術の差があるため、指導方法や内容は個々に委ねられている。

このような状況の中、日々の看護実践に不安を感じ、透析導入期指導チェックシート（以下シートとする）を作成した。シート導入により、短期間で計画的に透析導入期指導を行うことができ、指導に対する看護師の意識に変化があったので報告する。

## II. 研究目的

シート導入により、透析導入期指導に対する看護師の意識変化を明らかにする。

## III. 研究方法

### 1. 研究期間

2010 年 5 月～11 月

### 2. 対象者

A 病院透析室看護師 5 名（透析室経験年数：1 年未満 1 名、1 年以上 2 年未満 3 名、5 年以上 1 名）

### 3. 方法

透析導入期指導に関する独自のアンケート調査を実施し、結果をもとにシートを作成した。7 名の透析導入患者にシートを用いて指導後、アンケート調査を実施した。指導に対する看護師の意識変化に関して、自由記載欄から類似した内容を集めて表題をつけた。

### 4. 調査内容

シート導入前の質問項目は、看護師経験年数、透析室経験年数、患者指導実施の有無、患者指導の頻度、開始時期、内容、計画性のある実施、指導状況や患者の理解度

の把握、スタッフ間の連携の有無、指導すべき内容である。シート導入後の質問項目は、導入前の質問内容に、今後の指導におけるシート使用の有無、シートの改善点、指導に対する意識を追加した。

#### 5. 用語の定義

シートとは、透析導入期指導を行うために透析室にて独自に作成した用紙で、指導内容を「透析中の管理」「腎臓のはたらきと透析のしくみ」「シャントについて」「ドライウエイトについて」の4回に分け、患者の反応をSOAPで記載できるようにしたものである。

### IV. 倫理的配慮

シート導入前後の調査ともに、対象者に研究の目的と意義、および、無記名調査であること、得られたデータは本調査の目的以外に使用しないこと、研究への参加は自由意思であることを文書にて説明し、調査書の回答をもって同意を得たものとした。なお、本研究は、所属施設の医薬品等治験・臨床研究等審査委員会の承認を得て行った。

### V. 結果

看護師5名は、透析導入患者7名に対し、シートを使用して患者指導を行った。シート導入前は透析導入期指導に「かかわっている」が0名、「時々かかわっている」が1名、「患者に聞かれた時だけかかわっている」が3名、「全くかかわっていない」が1名であり、指導内容は統一されていなかった。シート導入後は、透析導入期指導に、「かかわっている」と全員が回答し、指導内容は統一できていた。シート導入による看護師の意識変化を表1に示す。

シート導入により、【知識】【業務】【短期間の援助】【看護師間の協働】【記録】に対する意識が変化した。以前から看護師は、透析導入期における指導の重要性を実感していたが、実践に活用できる【知識】がなかったことや、【業務】が煩雑だったこと、在院日数の短縮化、透析時間のみに関わりから【短期間の援助】となることで、患者指導を行えないという葛藤があった。また、透析室の経験年数に幅があり、【看護師間の協働】が行えず、情報共有となる【記録】も行えていなかった。しかし、シート導入により、煩雑な業務の中でも指導し、記録するという意識をもつようになった。その結果、看護師間で連携が図れ、指導が計画的に行えたことが自信につながった。また、指導の記録をシートに記載することで、患者の状況把握が容易となった。

シートを使用して患者指導を行った7名の患者のうち、2名が計画どおりに指導できず指導を中断した。

### VI. 考察

導入期の目標は、1. 尿毒症症状の改善 2. 透析療法に慣れる 3. 不安が軽減する ということであり、患者の表情・言葉から気持ちの変化を読み取り、反応を見ながら導入期指導を進めていく<sup>1)</sup> ことが必要である。導入期指導は、患者の今後の透析治療に対する受け入れや自己管理の必要性を理解するうえで大切であるが、その時期に指導が十分に行えていないことに、看護師は日々葛藤を感じていた。この葛藤は、指導内容・方法が個々の看護師

の知識・意識・経験に任されていたため、指導の進め方に統一性や計画性がなかったことで感じていたと考えられる。シート導入により、統一した指導が行え、患者の言動や指導内容の記事を記載することで問題を共有できた。また短期間で計画的な指導を提供できるようになり、看護師全員がシートの効果を実感できた。シート導入前は、患者から質問があった時に指導するという受け身対応であったが、シート導入後は、看護師から積極的にコミュニケーションを図り、患者との関係性が深まったと実感していた。このような援助を提供できるようになったことで、自分たちが行う指導に自信が持て、満足感につながったと考える。

2名の患者の指導を中断した理由として、高齢であること、透析導入の受け入れが不十分であったことが考えられる。また本研究は、シート導入後5ヶ月でのアンケート調査であり、活用件数が看護師1人あたり1~2例ずつと少ないため、今後の課題として、活用件数を増やすとともに、シートの改善や、活用による指導が患者にとって有用であることを検証していくことが必要である。

## VII. 結論

1. シート導入により、【知識】【業務】【短期間の援助】【看護師間の協働】【記録】に対する看護師の意識が変化した。
2. シート導入により、看護師の自信・知識の底上げにつながった。
3. シート導入により、看護師間で問題を共有でき、短期間で計画的に指導できた。

## 引用文献

- 1) 高嶋節子：「認定看護師」が教えるステップアップ方式による最新看護技術 透析看護，看護実践の科学，12，44，2006.

## 参考文献

- ・宮澤初美，竹内美保，須崎美恵子：導入期の患者指導を考える，第12回日本腎不全看護学会学術集会・総会プログラム・論文集，95，2009.
- ・伊藤希和子，小林志げ子，赤塩恵子ら他：透析導入期指導の検討，長野県透析研究会誌，31(1)，21-25，2008.
- ・加藤登喜子：腎不全医療におけるクリニカルパスの再考 クリニカルパスの実際と有用性の検討 血液透析導入，臨床透析，21(3)，303-311，2005.
- ・寺籠祥恵，川野恵美，長原正美ら他：透析導入のクリニカルパスについての検討ーデイリーシート形式を用いてー，大阪透析研究会会誌，24(1)，39-43，2006.

表 1 看護師の意識変化

	シート導入前	シート導入後
知識	いつ指導を始めたらいいかわからない	患者の状態に合わせた指導開始時期がわかるようになった
	何から指導したらよいかわからない	指導内容が明確になった
	計画的に指導していくほどの知識がない	何を指導すればよいか整理できた
	自分の指導に自信がない	説明し忘れることのない安心感があつた
業務	一人の患者に継続的に関わるのが難しい	業務の一つとして認識できた
	業務が忙しく、指導を行う時間がない	業務が忙しくても、時間を作って指導するようになった
	看護師の交代が激しく、統一した指導を行うことが困難	煩雑な業務の中で指導が計画的にできたことが、自信につながつた
	透析中に患者とゆっくり話す余裕がない	透析中に指導できた
短期間の援助	他院へ早期に転院となる	短期間で計画的に指導できた
	入院日数の短縮化のため、患者の透析に対する受け入れが困難	指導内容を増やせると確信した
	透析中の患者の様子しかわからず、指導が進めにくい	患者とコミュニケーションがとれるようになり、関係性が深まつた
看護師間の協働	指導方法が統一化・標準化していない	連携がはかれた
	いろいろなスタッフに関わる為、指導状況が把握できない	他の看護師が何をどこまで指導しているかわかつた
	他の看護師が何をどのように指導しているのかわからない	他の看護師が指導している内容・関わり方がわかつた
記録	指導状況・理解度がわかる記録がない	患者の受け入れ状況の把握が容易となつた
	記録に残していない	
	記録の取り決めがない	患者の理解度の把握が容易となつた
	透析経過表に指導内容を記載していない	
	過去の透析経過表を振り返るのが大変	一枚に集約されてわかりやすい